

現代社会とは？：

インターネットや携帯電話、電子メールは、社会生活や企業活動にとって必要不可欠からざるものになった。このような情報技術は、社会を便利で快適なものにし、労働生産性を向上させるなど良い面と深刻な不安や犯罪を引き起こす悪い面をもっている。

情報革命が進むとインターネットや電子メールで相互理解が進む、との予想とは逆に、情報のグローバル化によって個々はそのアイデンティティを強く求め始めた。その結果、原理主義が台頭して相互不信が増大・深刻化し、紛争は激化している。情報によって投機マネーは世界を駆け巡り、原油は乱高下を繰り返し、貧富の差は拡大している。

このような社会はどのような特徴を持つか？（上の分析もその一つ）

（情報的な面から社会・人間や技術・科学を分析＝情報文化学）

このような社会の深刻な課題は何か？

課題を解決するにはどうすべきか？

社会はどの方向に進もうとしているか？進むべきか？

これこそが「情報文化」学です。

「情報文化」学とは？：

情報の視点から現代社会を捉えなおし、その中の課題を明らかにし、今後進むべき方向を探る新しい学問。

求められているものとは？：

社会は、全体で出来ている。部分、部分を合体させても全体にはならない。なぜならば、全体は個々の要素が複雑に相互に関連しているからである。部分、部分を断片的に見てもそれは全体を理解できない。当然であるが、文系や理系に分かれていない。

高校の教育課程で数Ⅲを取るか取らないかで、文系と理系に別れ、大学では文系学部で文学、教育、法学、経済と別れ、理系学部では分野別でなくなんとなく工学、理学、農学、医学に分かれている。しかし、現実にある問題は、すべての分野に関係している。例えば、貧困問題は、時に教育に関係し、時に経済に関係し、時に法に関係し、時に工学に関係し、時に農学に関係する。そして、それぞれの分野で必死に解決策を模索し、解決策を提案している。しかし、部分からの解決策が真の解決になるのだろうか？

私たちに求められているのは、人間を深く洞察・理解し、様々な要素が複雑に相互に関連している「全体」を見通す力と現代社会を担っていくためのスキルを身につけ、人類が解決すべき課題に挑み、全体からの真の解決策を模索することである。

文理にまたがる専門家・専門知識をつないで新しい価値を創造し、求められている解

決策へ導くことや「全体」が調和のとれた形になる設計図を描くことが求められている。

あなた方に求められているのは、専門家を使いこなす理解力や能力である。専門家は、時として専門分野や専門知識の細部に囚われ、専門分野が少しでも異なると偏見を持った始末の悪いど素人になり、調和のとれた解決策を導き出せない。

情報文化学部が目指す人間とは？： 情報リテラシー、言語リテラシー、論理的思考力の3つの基礎的な力を備え、情報の視点から人間を深く理解し（02系）、様々な要素が複雑に相互に関連している「全体」を見通す力（03系）と情報社会を担っていくための情報に関するスキルとセンスを身につけて（01系）、文理の壁を越えて専門家・専門知識をつないで新しい価値を創造し、人類の課題に挑む人間。⇒情報を核とする媒介型知力で異分野をつなぎ、人類の課題に挑む。

情報文化学部のカリキュラムとは？： 3つの基礎的な力を00系～03系の専門基礎科目群で媒介型知力に転化して、文理の壁を越えて専門家・専門知識をつないで新しい価値を創造できる人間にするカリキュラム。

